演奏に役立つ One Point Lesson

トロンボーン Trombone

タンギング～より明確な表現をするための演奏手段

松下浩之 まつした・ひろゆき

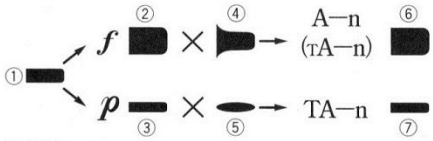
【出身】大阪音楽大学
【所属】大阪市音楽団、アポロ・トロンボーンクァルテット、H.G.Q.、After Hours Session
【趣味】旅行、ペット、変装など多数
【血液型】O型
【星座】やぎ座
【読者にひとこと】イメージを大切に！
【手紙の送り先】BJ気付

今月と来月は、タンギングについて考えてみたいと思います。よく「どうすればきれいなタンギングができますか？」という質問を受けます。本来タンギングは、音型（音の発音）をより明確に表現するために舌を使ってサポートする、一つの演奏手段なのです。つまりタンギングそのものは、音楽に必要な「音ではない」のです。

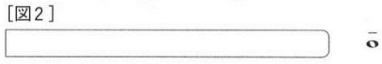
■「舌突き」ではなく「舌離し」

一度「ター」と言ってみてください。そのとき、舌はどうなっているでしょうか？　無意識に歯の裏側に移動した舌が、歯から離れる瞬間に息が出て「ター」と声が出たはずです。試しに、声を出す瞬間に舌を突こうとすると発音できないですよね。だから、タンギングは「舌突き」ではなく、**「舌離し」**と言った方がよいかもしれません。

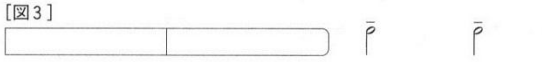
[図1]



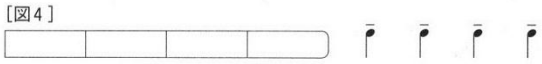
[図2]



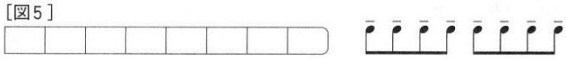
[図3]



[図4]

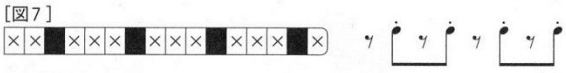


[図5]

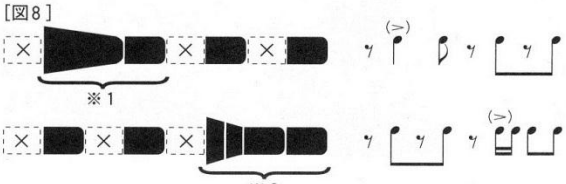


[図6]

[図7]



[図8]



■「T：Aバランス」

自分の一番楽に出せる音を、楽に響く音量で吹いてみてください**[図1①]**。次に*f*や*p*でも吹いてみましょう。どうですか？　音量が変わっても、ステレオのボリュームだけを操作したように同じ音型のままだったらOKです**[図1②③]**。*f*＝**[図1④]**、*p*＝**[図1⑤]**のようになってしまった場合、音量によって**タンギング「T」と響き「A」のバランス**を変えてみましょう。*f*のときには「TA—n」**[図1⑥]**、*p*のときは「TA—n」**[図1⑦]**のように。

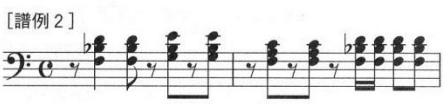
しっかりと息に支えがあれば、強奏時には「A—n」だけでも十分ハッキリと聴こえます。日常生活で突然驚いたときの「ワッ！」、「痛っ！」と叫ぶときの「い」、犬が「ワンワン」大声でほえるときの「ワ」……どれもタンギングしてないですよね。

■発想の転換

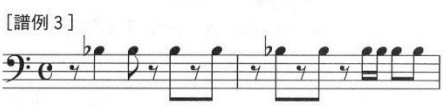
例えばマーチのあと打ち（**[譜例1][譜例2]**など）の部分を、指導者の先生に「トロンボーン、もっとハッキリと！」と言われたら、みなさんはとっさに頭で「もっとタンギングを硬くしよう！」と考えませんか？　で、「硬く舌を突く」と……、「それじゃ音が短くてきたない」、「ハーモニーが聴こえない」、「遅れる」などと指摘される。

[譜例1]

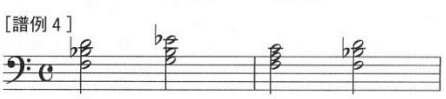
[譜例2]



[譜例3]



[譜例4]



そんな場合は発想を転換して、タンギングではなく**ロングトーンからアプローチ**するのも一つの方法です！　ロングトーンで4拍伸ばしてみてください**[図2]**。そして、**[図3]**、**[図4]**、**[図5]**と徐々に半分の音の長さにしていきます。そのとき**[図2]**と同じ息の流れであることに注意しましょう。ちょうど、形のよい大根をよく切れる包丁で切ったような感じです。

最後に「×印」は休符にします**[図6]**。休符の箇所も音符と同じスピード感で進むような感覚を持つことがポイントになります。早足で歩きながら、等間隔で並んでいるお地蔵さんの頭を、1つ飛ばしで撫(な)でる感じ！

このままだと、テヌートが付いているようで少々音符が長いので、**[図7]**のようにさらに細かく考えてみるのもよいでしょう。

[譜例2]はシンコペーションのリズムなので、**[図8]**のように四分音符は他の八分音符よりもスピード感とパワーが必要です。シンコペーションを際立たせるためには、直前の八分休符がポイントです！　跳び箱に例えると、直前の八分休符が踏み切りで、四分音符は手をついて飛び越えている部分です。手をつく動作がタンギング「T」、跳び箱を飛び越えて空中を飛んでいる状態が響き「A—n」の部分ともいえます。

また、※2の十六分音符のある部分は、まず※1のシンコペーションのリズムで練習するとうまく吹けます（♬と♫ではなく♬♪と♪＝♬♩♪のように）。

パートで練習するときは、まず全員同じ音で順番にリレー式に吹いていき、あたかも一人で吹き続けているように聴こえるようにしましょう**[譜例3]**。そして、ハーモニーの確認**[譜例4]**をしてから、最後に楽譜通りに吹きます。